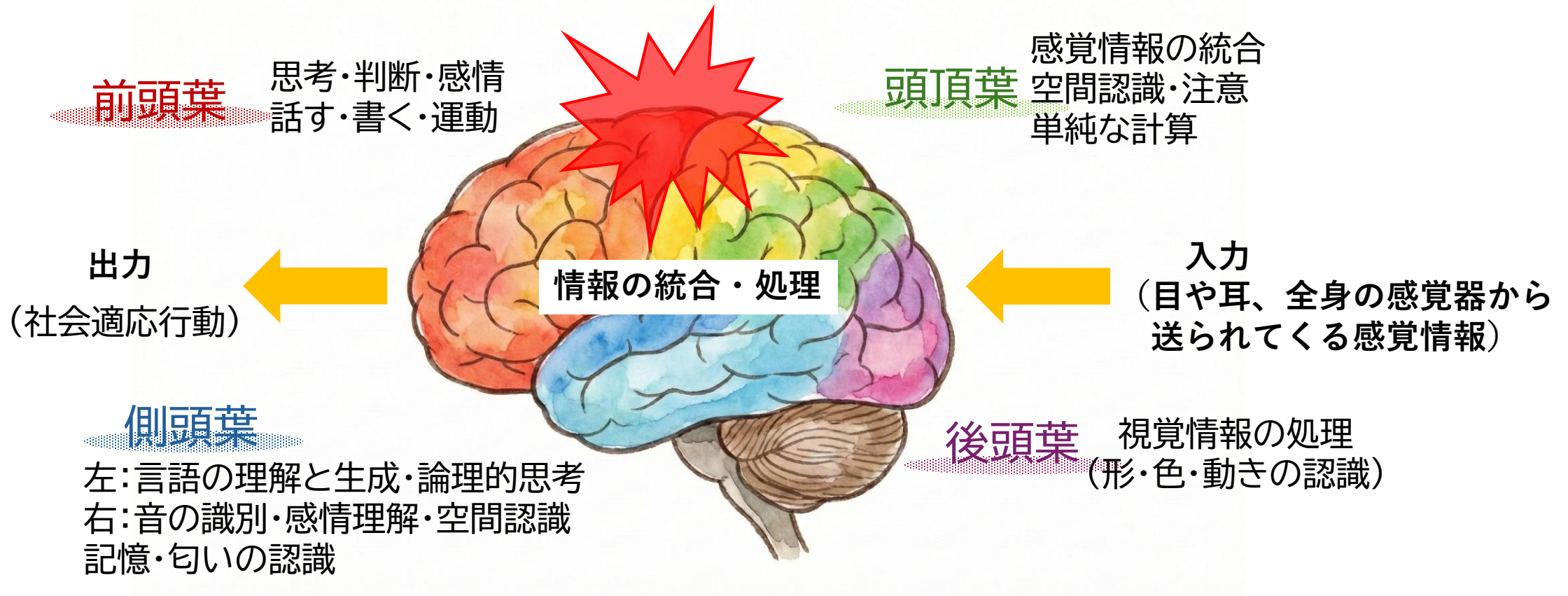


高次脳機能障害の理解と関わり方について

宮城県リハビリテーション支援センター
リハビリテーション支援班

高次脳機能障害とは・・・



高次脳機能障害 → 脳の損傷により、記憶や言語、物事の認識、判断、思考、感情など認知機能の高度なネットワークに不具合が生じ、社会生活に支障をきたした状態

高次脳機能障害の主な原因

- 脳血管障害（脳出血・脳梗塞・クモ膜下出血）
- 転倒、転落、交通事故等による頭部外傷（脳挫傷・びまん性軸索損傷）
- 低酸素脳症
- 感染症による脳炎
- 脳腫瘍



誰にでも起こり得る障害

高次脳機能障害の多彩な症状

● 記憶障害

● 注意障害

● 遂行機能障害

● 感情と行動の障害

● 障害認識の低下

● 脳疲労・情報処理速度の低下

その他にも幾つかの特有の症状を呈することがある。

- 半側空間無視(目は正常だが、片側の空間を認識できない)
- 失行症(手足の運動に問題ないのに、指示された動作や道具を使えない)
- 失認症(視覚に問題がないのに、見ている物が何か判断できない)
- 失語症(言葉の理解や適切な表出ができない)

- 顕著な身体障害を伴わない場合も多い。
- 運動障害と異なり、外見からは分かりにくい。
- 本人自身も自己の障害に気づかない。



見えない障害

高次脳機能障害の症状 ～注意障害～

持続性注意障害

1つの作業に集中し続けられない



- ・事務作業や家事などでうっかりミスが増える。
- ・1つの作業を最後までやり遂げることが困難。
- ・会話の途中で注意がそれ、話についていけない。
- ・「飽きっぽい」、「やる気がない」と誤解されやすい。

選択性注意障害

必要な情報だけを選んで意識を向けることができない



- ・スーパーの陳列棚から目的の商品を見つけられない。
- ・引き出しやバッグの中から特定の物を探しだせない。
- ・騒々しい会場で相手の話に意識を向けられない。
- ・「ぼんやりしている」と誤解されやすい。

配分性注意障害

複数のことに同時に意識を向けられない



- ・調理をしながら、器具を洗う、音楽を聴きながら掃除をするといった「ながら作業」ができない。
- ・歩行中に周囲の交通状況(車、信号、障害物等)に同時に意識を向けられない。

転換性注意障害

注意の切り替えができない



- ・突然の電話や来客などで、途中で作業を中断して対応することが苦手。
- ・一度始めた作業を止められず、ダラダラと続けてしまう。
- ・一度作業を中断すると、その作業に戻れない。

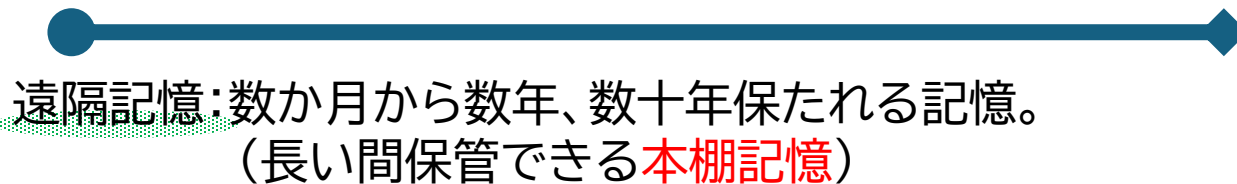
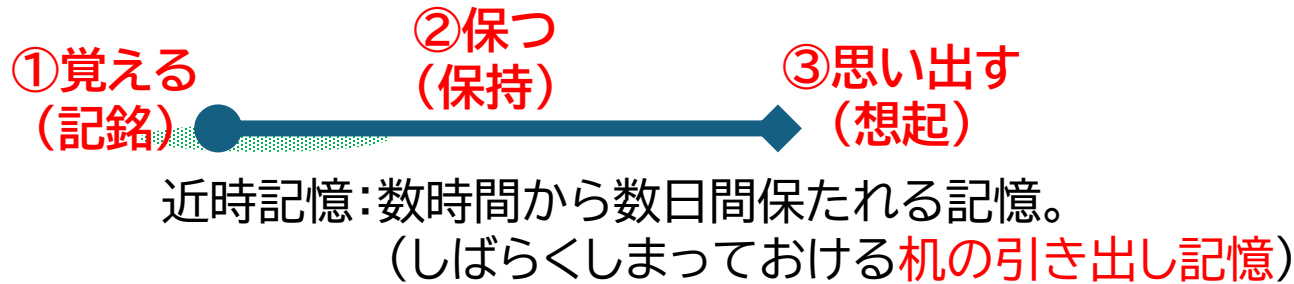
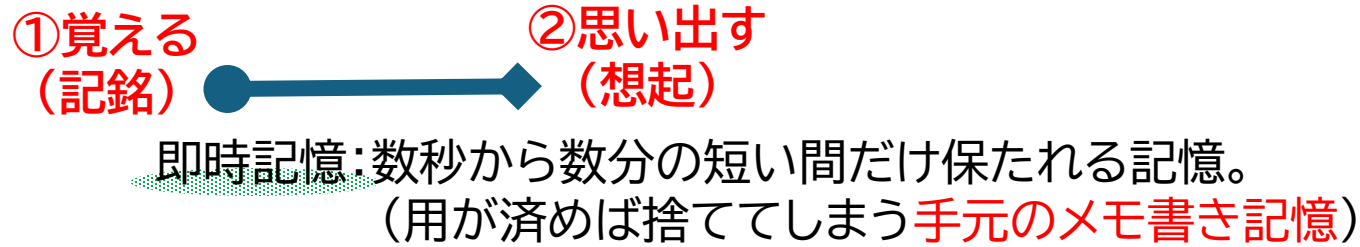
- ✓ 一度にたくさんのことをしない！
- ✓ 作業を単純化する！

- ✓ 作業は静かな落ち着いた環境で！
- ✓ 疲れが溜る前に休憩する！

高次脳機能障害の症状 ～記憶障害～

記憶について

記憶とは、新しく覚えた情報をそのまま保ち、その後の意識や行動の中で思い出す過程を言います。



- 記憶の長さは、意識や注意力、心理的な機能と密接に関係
- 繰り返し思い出されることで、より長い記憶として定着

高次脳機能障害の症状 ～記憶障害～

新しく覚える力 と 思い出す力 が低下する



- ・突然入った予定や今日の予定を覚えられない。
- ・初めて会った人の名前を覚えてもらえない。



- ・新しいルールを覚えられない。
- ・仕事の手順を覚えられない。



- ・何を買いに来たか忘れてしまう。
- ・作業中に次の工程を思い出せない。
- ・片づけた場所を思い出せない。

覚えることを本人の頭の中だけに頼らない

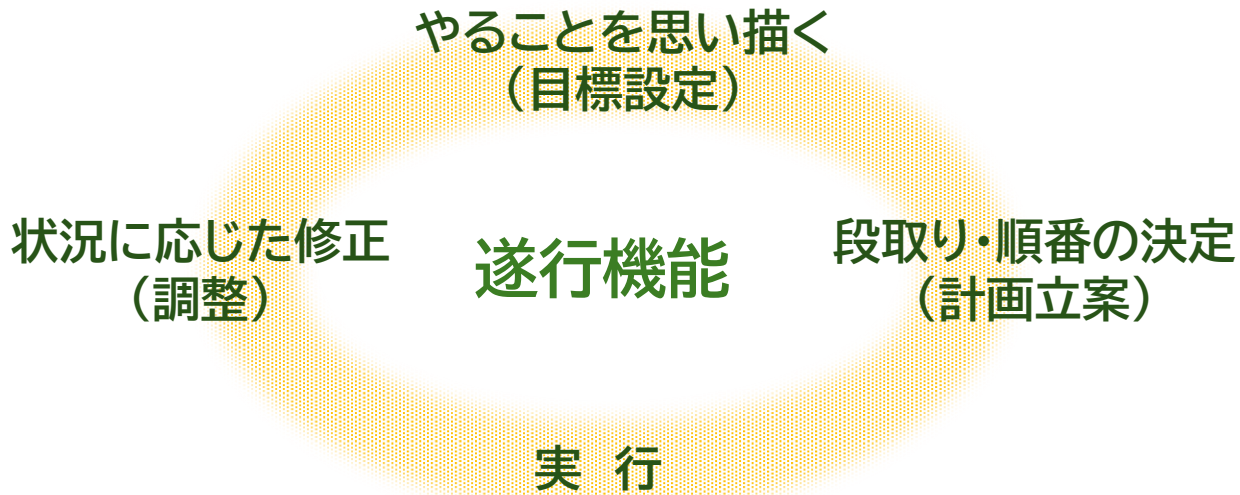


道具を用いて外に記憶を置く！

- ・常に持ち歩けるメモ帳、スマホのメモ機能
- ・やることリストを毎日作る
- ・大切な予定はカレンダーに書く
- ・スマホのスケジュール機能を使う

- ✓ 覚えることを強いらぬ、急かさない
- ✓ 一度にたくさんのことを伝えない
- ✓ 目の付く場所に物の置き場所を固定する
- ✓ 言葉だけでなく、短文や絵、写真を用いる

高次脳機能障害の症状 ～遂行機能障害～



遂行機能障害

- ・目的を持った行動手順(段取り)が立てられない。
- ・想定外のことに柔軟に対応できない。
- ・気持ちはあっても、どう始めたらよいか分からない。
- ・受け身的な行動になりやすく、「やる気がない」と誤解されやすい。



✓ 予定や手順を見える化する。

- ・やることリストを作る。
- ・家事や作業の手順書を作る。

✓ 作業を小さく分け、優先順位をつける

- ・色分けして作業の優先順位を視覚的に示す
例) **最優先** できれば **余裕があるとき**

✓ 気が散りにくい環境をつくる

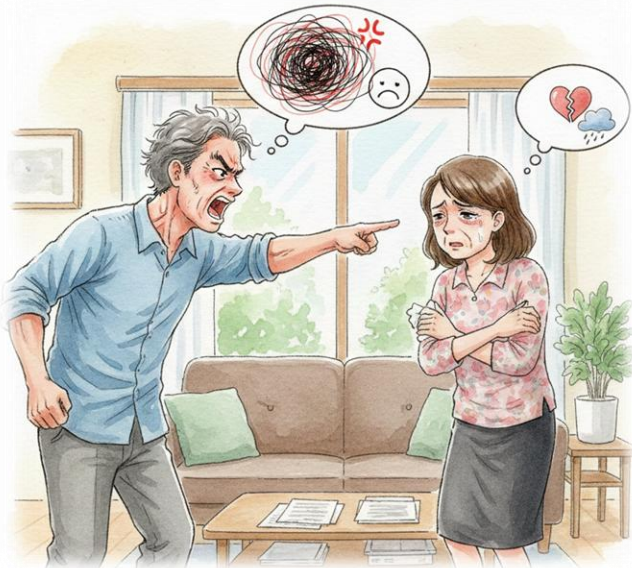
- ・必要なものだけを机に置く

高次脳機能障害の症状 ～感情と行動の障害～

脳の損傷によって**気持ちのコントロールや行動を調整する力が弱くなった状態**

本人の性格が変わったのではなく、脳の障害により上手く立ち回れない状態 と受け止めることが大事

■ 気持ちのブレーキが利きにくい



- ・ちょっとしたことでイライラする。
- ・気持ちの切り替えができない。
- ・感情が爆発するとブレーキが利かない。

要因

- ・前頭葉機能の低下により、衝動を抑えたり、気持ちの切り替えが困難になる場合。
- ・脳疲労や情報処理の負荷が引き金になっている場合。

支援の工夫

- 刺激を減らす環境づくり
 - 疲労を溜めない
 - 指摘や説得は逆効果
 - 怒りのサイン(表情、動きなど)を家族・支援者で共有
- 爆発してしまったら・・・
- 余計な言葉をかけずに、距離を置く、静かな場所に移動する

高次脳機能障害の症状 ～感情と行動の障害～

「怠けている」、「やる気がない」のではなく、「行動を始める力が弱くなっている」と受け止めることが大事

■ 行動に移すスイッチが入らない



- ・感情が表に出にくく、無関心に見える。
- ・意欲が湧かずボーとしている。
- ・考えや言葉がまとまらず行動に移せない。

要因

- ・前頭葉機能の低下により、行動の開始、継続、切り替えができない。
- ・何をすればよいか分からない、手順が分からない
- ・注意・意識が持続しない
- ・楽しみや興味が湧いてこない(内発的動機が湧きにくい)

支援の工夫

- 予定をルーティン化する
- 達成可能な小さなことから始める
- 急かさない、強制しない
- 終わりの時間を決める
- できたことをその場でフィードバックする
- 睡眠リズムを整える

高次脳機能障害の症状 ～自己の障害認識の低下～

自己の内面をモニターする力が極端に弱くなった状態



- ・自分の能力を過大評価する。
 - 「できる」と思って行動するが、実際には難しい。
 - 本人は問題ないと感じるため、注意されても納得しない。
- ・失敗しても原因を理解しにくい。
 - 同じ失敗を何度も繰り返す。
 - 本人はできているつもり
- ・危険の予測が難しい。
 - 本人は大丈夫と思っているので、静止されると不満を抱く。

支援の工夫

- 体験を通して気づきを促す。
 - 口頭で説明せず、行動の結果を一緒に確認する。
- 適度な失敗を経験してもらう。
 - 失敗を一緒に振り返る姿勢が大事。
- 抽象的な説明は避ける。
 - 写真や動画など視覚的なサポートを駆使する。

**高次脳機能障害への支援は、特定の誰かだけの支援では
背負いきれません。**

**家族や複数の支援者の共通認識と首尾一貫したサポート
が最も重要です。**

長期的視点に立った支援と心得

- 「回復はゆっくり、でも確実に前進する」ことを理解する！
- 「できること」を認め、「できないこと」を補う姿勢！
- 「本人に配慮した環境づくり」が」支援の要！
- ご家族も支援者も1人で背負い込まない！

ご清聴ありがとうございました

【高次脳機能障害に係る相談窓口】

宮城県リハビリテーション支援センター

リハビリテーション支援班

☎022-784-3588

<監修>

東北医科薬科大学病院
高次脳機能障害支援センター